

側款の文辞について

川内伯豊

● 「側款」とは

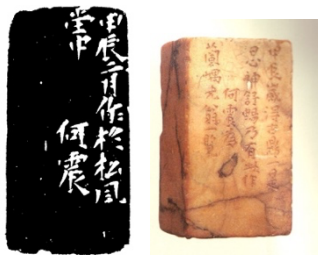
側面に刻された款識（かんし） 篆刻の落款（落款⇨落成款識の略）。
 款識…鐘や鼎などに鑄刻した文字・銘文。転じて、書画に作者が署名・押印すること。
 側款…印を刻した作者が、自分が刻した証を印の側面に刻すこと。辺款・印跋ともいう。
 印跋…印に附された跋文。款識に比べ内容が豊富。作者以外が刻すこともある。
 ※原則として左側面に刻す。多面に互る場合、左側面で終わるようにする。頂款もあり。
 ※篆刻の側款を刻す際は、原則として**正字（旧字体）**を用いる（適宜略体も使用可）。

● 側款の起源

印章…隋唐の官印に年号や印文を記したものが最初
 篆刻…明末の文彭が刻帖の技法を応用して開始（文彭…停雲館法帖を摹勒、双刀による葉研彫）
 何震が単入刀法の側款を刻し、後の浙派を経て側款刀法の主流となる。



太平興國五年十月鑄（980）



何震の側款

I. 側款の基本文型

- ① いつ 年・月・旬・日・時間
- ② だれが 主語+動詞
- ③ どこで 場所

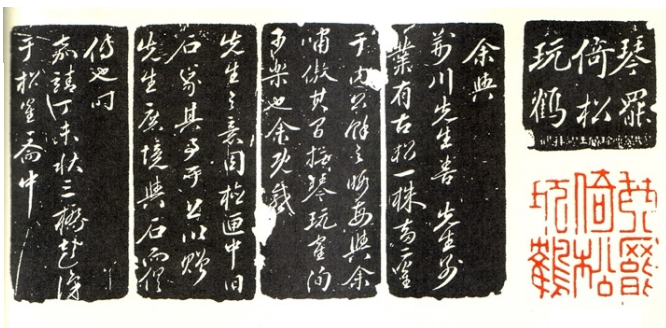
辛丑仲秋上澣伯豊刻於尚友齋

① いつ — 時候に関する語句

- ・十干…甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸
- ・十二支…子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥
- ・歳在く、歳次くと始めることもできる。

【季節の主な異名】

- 春…春陽・陽中・蒼天・東皇・天端
 - 夏…朱明・昊天こうてん・炎節・蕃秀・長瀛
 - 秋…白蔵・金商・精陽・收成・旻天びんてん
 - 冬…元英・上天・安寧・嚴節・元冥
- ※このほか二十四節気も側款には有用。



文彭「琴能倚松玩鶴」

嘉靖丁未秋三橋彭識
于松雀齋中（1547）

【月の主な異名】 ※和名の別称は側款では原則として用いない。

- 一月 孟春／正月／初春／陽春／端月／青陽／月正／解凍／大簇・太簇（たいそう）
- 二月 仲春／仲陽／令月／麗月／華朝／惠風／殷春／降入／夾鐘（きょうしょう）
- 三月 季春／殿春／嘉月／清明／修禊／五陽／暮律／衍洗／桃緑／姑洗（こせん）
- 四月 孟夏／首夏／維夏／純乾／麦秋／修景／小滿／仲呂／鎮月／乏月（ぼうげつ）
- 五月 仲夏／啓明／薰風／芒積／梅天／雨月／橘月／梅月／勵阜（れいこう）
- 六月 季夏／晩夏／長夏／溽暑／陽氷／則旦／遯月／鶉火／林鐘（りんしょう）
- 七月 孟秋／初秋／新秋／肇秋／蘭月／桐月／流火／大晋／享菽／夷則（いそく）
- 八月 仲秋／仲商／天岡／秋涼／長五／剥事／素月／桂月／桂秋／南呂（なんりょ）
- 九月 季秋／晩秋／暮秋／涼秋／玄月／肅霜／授衣／太衝／淒辰／無射（ぶえき）
- 十月 孟冬／開冬／初冬／陽月／大素／玄英／極陽／始氷／応鐘（おうしょう）
- 十一月 仲冬／霜月／暢月／星紀／風寒／朔易／黄鐘／短至／畢辜（ひっこ）
- 十二月 季冬／晩冬／極月／窮陰／臘月／苦寒／嘉平／大呂／抄冬（びょうとう）

上旬…上澣・上浣 / 中旬…中澣・中浣 / 下旬…下澣・下浣

【日の主な異名】

- 〈共通〉一日…朔日・朔 / 十五日…望日・望 / 末日…晦日・晦・提月
- 一月一日 …元日／改旦 五月五日 …重五／端午／午日 十月一日 …十朔／拜冬
 - 一月七日 …人日／元七 七月七日 …七夕／星節／七夕 十月一〇日…重十
 - 一月一五日…上元・元宵 七月一五日…中元／人節 十月一五日…下元
 - 三月三日 …重三・上巳 八月一五日…中秋 十二月八日…臘八
 - 四月一日 …清和日 九月九日 …重九／重陽／菊節 十二月三〇日…除日／歳盡／窮日
- 〈例〉辛丑拜冬後三日〇〇刻 / 辛丑孟冬望日〇〇刻（「望日後二日」とは用いない）

【時間の主な異名】

朝…清晨／晨旦／清曉 昼…亭午 夕方…薄暮／黄昏 終日…盡日／竟日

〈例〉辛丑仲冬朔日亭午〇〇刻 / 辛丑季冬晦盡日〇〇刻

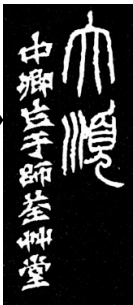
② だが…主語と動詞

- ・主語…名（姓は記さない）・字・雅号・堂号、号+姓名はあり（畏まった表記）
 - ・動詞…ほる・つくる…刻・作・製・鑄・篆・奏刀・篆（篆刻）・刊（刊石）・治（治印・治石）
- しるす…記、識、誌（志）
- ※作は、人偏を省略することが多い。

③ どう…場所を表す語

- ・場所を示す助詞「於」・「于」を冠す。
- ・場所…齋号・堂号・地名ほか、刻した場所にまつわる固有名詞。
- ・〇〇齋鏡下（夜に明かりの下で） / 〇〇軒北窗下／曉窗（方角・時間）窓∥窗∥窓∥牕
- ・地名を記す場合は、雅称・別称などを用いると尚可（名古屋↓尾張蓬左など）。

（作）



小林斗盞



II. 側款の様々な定型句

【為書】 為く刻（ゝの為に刻す）

「悲盒為_二菱甫刻_一」、「為_二菱甫悲盒刻_一」も可

【依頼】 屬・囑（たのみ、たのむ）

「屬_二余刻_三此五字_一上、始成_二是印_一」。

「應_二先生之屬_一」。

【批正】 正・政・質（ただせ）「く雅正。く作。」

雅正・教正・鈞正・正腕・清正・指正・指教

鑒・鑒（かんがみよ）「春疇仁兄鑒。上虞徐三庚記。」

清鑒・鑒賞・雅鑒・清賞など

【謹呈】 贈・貽・詒（おくる）。「刻贈_二子寬良友_一。吳俊。」

「上虞徐三庚弟。刻詒_二子晚香老道長先生_一。」

充（あつ）。「刻充_二玉几先生文房_一。」

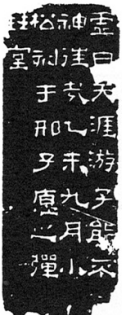
「刻_レ此用充_二清秘_一」。

III. 多様な側款の様式

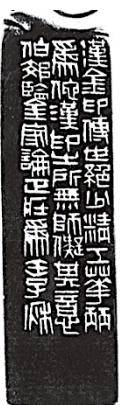
①楷書



②隸書



③篆書



④行草



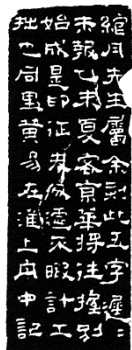
※配置が重要。空間に適した文字の大小、余白のバランスを考える。

【側款の刻風】

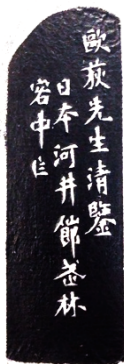
- ・ 切刀法を用いた単入刀法 入刀部に力を入れひと息で刻す 何震・徽派↓西泠八家↓吳昌碩
- ・ 現在も中国・台湾、西日本（関西）で主流な刻り方
- ・ 東日本では北魏楷書風が主流 趙之謙が始祖↓河井荃廬が受容↓西川寧・小林斗盦が確立
- ・ 終起筆部での入刀など、随所で工夫が凝らされるのが特徴的



趙之謙



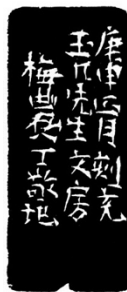
黃易



河井荃廬



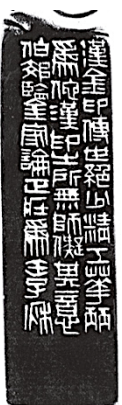
徐三庚



丁敬



吳昌碩



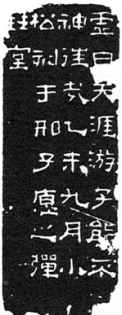
王壯為



錢君匋



王福庵



黃易



趙之謙



韓天衡

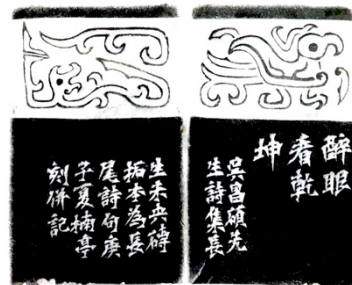


趙之謙

V 篆刻作品の側款

〈主な特徴〉

- ・印文の明記…印文を含む原文の一節を記すことも多い
- ・出典の明記…見○○、採○○、摘○○
- ・模範、参考…做○○之法、擬○○之態、撫○○など
- ・特殊な字形の文字について但し書き



醉眼看乾坤
吳昌碩先
生詩集長
生未央碑
拓本為長
尾詩句庚
子夏楠亭
刻併記

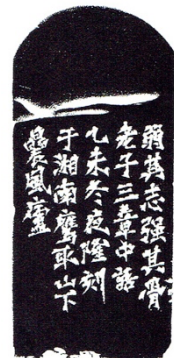
岡野楠亭「醉眼看乾坤」



中島藍川「豫之齒者」「去其角」



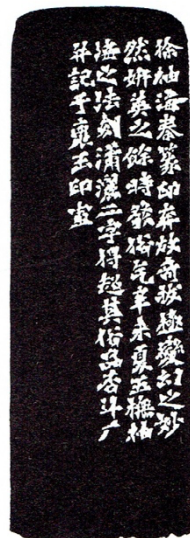
梅舒適「白鬚飄然」



河野隆「彊骨」

白鬚飄然 白居易
池上篇句 某(梅)

弱其志、彊其骨。老子三章中語。
乙未冬夜隆刻于湘南鷹取山下晨風廬。



小林斗盦「瀟灑」

徐袖海の秦篆印は奔放奇抜にして變幻の妙を極む。然るに妍英の餘り、時に俗氣を發す。辛未夏五袖海の法を撫して瀟灑二字を刻す。其の俗品を超ゆるを得るや否や。斗盦懷玉印室に于いて并びに記す

※側款・印跋は言論行為の一つ…作者の制作意図や主張が著される。

【側款の内容を理解するための参考資料】

- ①中田勇次郎ほか著『書道全集 別巻I 印譜 中国』、平凡社、一九六八年
：収録する側款の文辞に返り点・送り仮名が附されており、初心者でも理解しやすい。
- ②宇野雪村・西林昭一・福本雅一編著『書道名言辞典』、東京書籍、一九九〇年
：側款・印論の名句・名言の解説を約一〇〇頁に亘って収録。北川博邦とその門人らによる。
- ③黄裳銘編著『篆刻的邊款』、眞微書屋出版社、一九九五年
：おそらく世界で唯一、側款について専門に記された著作。側款の歴史や様式について豊富。